

2020－2030

南砺市SDGs未来都市推進実施計画
～南砺市民が創る南砺の未来に向けて！～



令和2年6月策定

南砺市

目次

第1章 策定にあたって

1. SDGs（持続可能な開発目標）	1
2. 南砺市がSDGsに取り組む背景とこれまでの取組	2
3. 推進実施計画の位置づけ	5
4. 推進実施計画で目指すあるべき姿	8
5. あるべき姿の実現に向けて	10
6. 施策と事業	11

第2章 具体的な取組

1. 全体のロードマップ	18
2. リーディングプロジェクト案	24

第3章 今後の展望..... 30

－資料編－

1. 南砺市SDGs未来都市推進実施計画の策定経過	31
2. 南砺市SDGs未来都市推進実施計画の策定体制図	31
3. 南砺市SDGs未来都市推進実施計画市民会議設置要綱	32
4. 「南砺市SDGs未来都市推進実施計画市民会議」委員名簿.....	33
5. SDGs未来都市推進本部員名簿	34
6. SDGs未来都市推進本部幹事会名簿	35

第1章 策定にあたって

1. SDGs*¹ (持続可能な開発目標)

(1) SDGsとは

SDGsは、2030年までに達成すべき世界共通の目標として、2015年に国連で採択されました。「世界中の誰一人取り残さない」をキーワードとし、貧困、福祉、教育、人権、環境など、様々な分野の目標が設定されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせよう	2 飢餓をゼロに 	飢餓を終わらせ、全ての人が一年を通して栄養のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう
3 すべての人に健康と福祉を 	あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進しよう	4 質の高い教育をみんなに 	全ての人が受けられる公正で質の高い教育の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう
5 ジェンダー平等を実現しよう 	男女平等を達成し、全ての女性及び女兒の能力の可能性を伸ばそう	6 安全な水とトイレを世界中に 	全ての人が安全な水とトイレを利用できるように衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的エネルギーを利用できるようにしよう	8 働きがいも経済成長も 	誰も取り残さないで持続可能な経済成長を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある人間らしい仕事に就くことができるようにしよう
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	災害に強いインフラを作り、持続可能な形で産業を発展させイノベーションを推進していこう	10 人や国の不平等をなくそう 	国内及び国家間の不平等を見直そう
11 住み続けられるまちづくりを 	安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境を実現しよう	12 つくる責任 つかう責任 	持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めていこう
13 気候変動に具体的な対策を 	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう	14 海の豊かさを守ろう 	持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続可能な形で利用しよう
15 陸の豊かさを守ろう 	陸上の生態系や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう	16 平和と公正をすべての人に 	持続可能な開発のための平和的で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人が法や制度で守られる社会を構築しよう
17 パートナリシップで目標を達成しよう 	目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発において世界のみんなが協力しよう		

SDGs副教材『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』（外務省・日本ユニセフ協会作成）より引用

¹ SDGs：「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指し、貧困、健康、福祉、教育、気候変動、エネルギー、平和などの17分野にわたって、2030年までに達成すべき課題と具体的な目標を定めた国際目標。

(2) 持続可能な開発とは

持続可能な開発とは、「今」のことだけでなく、「未来」の人や環境のことを考えて行動し、これからの発展につなげることを意味します。例えば、私たちの財産であるきれいな山や川などの自然環境を守ること、限りある資源を大切に使うこと、昔から伝わる伝統や文化を次世代に引き継ぐことなどは、持続可能な開発に結びつく取組のひとつと言えます。



この図はSDGsウエディングケーキモデルと言われるもので、ケーキの土台の部分に「環境」の層があり、その上に「社会」と「経済」の層が重ねられています。これは、経済は社会に、社会は環境に支えられており、経済や社会の発展には豊かな環境が必要不可欠であることを表しています。持続可能な開発を進めるためには、これらの三側面を調和させることが大切です。

ヨハン・ロックストローム氏（ストックホルムレジリエンスセンター所長）が考案したSDGsウエディングケーキモデルを参考に作成

2. 南砺市がSDGsに取り組む背景とこれまでの取組

(1) 南砺市の概況

本市は、富山県の南西部に位置し、2004年11月に8つの町村の合併により誕生しました。面積の8割が森林という豊かな自然の中、散居村が広がる平野部から、世界遺産「五箇山合掌造り集落」を有する山間部まで、懐かしく美しい日本の原風景が広がっています。そんな風土のもと、人びとは自然と人に感謝しながら暮らしを営み、多種多様な伝統文化、食文化、芸術文化を育んできました。

その一方で本市は、合併後から少子高齢化の進行や若者世代を中心とした市外への転出の影響で人口が減少傾向にあるという課題にも直面しており、特に高齢化率は、2019年9月末時点で38.7%と、全国平均と比較して10.2%、富山県全体と比較しても6.4%高い割合を示しています。

(2) これまでの取組

本市では、今後、更なる人口の減少や高齢者世帯の増加に加えて、地球温暖化や気候変動等の様々な変化が予測されており、2013年3月に「小さな循環による地域デザイン」を基本理念として策定した「南砺市エコビレッジ構想」や、2015年9月に策定した「南砺幸せなまちづくり総合戦略」に基づき、以下の取組を進めてきました。

①心豊かな「結」と「土徳^{*2}」のまち創造

結婚・出産・子育て・教育の支援や地域共助の確立により、心豊かで安心して暮らすことができる社会を実現する。

②多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造

若者と女性がいきいきと輝いて活躍できる環境の整備や、中小企業の活性化、創造型産業の構築、地域の伝統資源の活用、ブランド商品開発により、「やりたいこと」が「できる」地域を実現する。

③南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造

地域コミュニティの堅持や、循環型社会と新たなライフスタイルの構築、行政効率化の推進により、地域資源^{*3}を活用・循環させワクワクする「懐かしい未来^{*4}」を実現する。

④文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造

ひとと出会い、ひとを呼び込む施策や、交流人口・貢献市民を拡大、大学・民間企業等との連携の推進により、ひとに出会い、ひとと深くつながるまちを実現する。

≪南砺市エコビレッジ構想≫

「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「保健・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」という地域社会の根幹を支える4つの分野が相互に連携・連動しながら、地域の自立と循環を図っていくことを目指し、2013年3月に「小さな循環による地域デザイン」を基本理念とする「南砺市エコビレッジ構想」を策定し、持続可能な地域をつくることを目標としています。

² 土徳：目には見えないが、土地の持つ大きな力であり、そこに暮らす人々が美しい心を自然にそなえさせてくれる尊い働きをいう。

³ 地域資源：地域の強みとなる産地の技術、農林水産物、特産品や観光名所といった地域の特徴ある資源。

⁴ 懐かしい未来：「未来に向けての進化」と「過去への原点回帰」が同時進行すること。

《南砺幸せなまちづくり総合戦略》

「南砺市人口ビジョン」で設定した将来目標人口に向かい、平成 27 年度から 5 年間で取組む施策をまとめています。子育て支援、移住定住といった人口減少対策や起業支援、雇用創出といった「しごとづくり」を施策の中心に据え、市民の「やる気」を支援し、「やりたいこと」が「できる」環境の実現を目指しています。目標数値や重要業績評価指標など成果を指標化し、その検証に外部組織を設置することで、より効果的な実施につなげることをとしています。

(3) SDGs 未来都市の選定

国は、中長期を見通した持続可能なまちづくりのため、地方創生^{*5}に資する、地方自治体による持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進していくことが重要であるとして、地方創生分野における日本の「SDGs モデル」の構築に向け、自治体による SDGs の達成に向けた優れた取組を提案する都市を「SDGs 未来都市」とし、特に先導的な取組を「自治体 SDGs モデル事業」として選定しています。

本市は、2019 年 7 月 1 日に、『「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング^{*6}強化と南砺版地域循環共生圏^{*7}の実装～』とした「SDGs 未来都市計画」の提案が、環境・社会・経済の分野をめぐる広範な課題に統合的に取組む国の「SDGs 未来都市」に選定されました。併せて、SDGs 未来都市の中でも先導的な取組であって、多様なステークホルダー^{*8}との連携を通じて地域における自律的好循環^{*9}が見込めるものとして、「自治体 SDGs モデル事業」にも選定されました。

今後はこれまでの取組を深化させ推進することにより、南砺版の SDGs モデルを確立していきます。

⁵ 地方創生：少子高齢化に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への過度の人口の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保することで、将来にわたって活力ある社会の維持を目指す考え方。

⁶ ブランディング：誰もが共有できるイメージを作り上げることでブランド化し、その価値をあげること。

⁷ 地域循環共生圏：各地域の地域資源を活かし、自立・分散型の社会を形成しつつ、地域内に足りないものは近隣地域と補完し支え合うことで創造する魅力あふれる地域社会像。環境、社会、経済の統合的な課題解決により脱炭素と SDGs を実現する考え方。

⁸ ステークホルダー：利害関係者。地域住民、行政、民間企業、NPO 法人など、活動を行う上で関わるすべての人及び団体。

⁹ 自律的好循環：金融機関と事業者の間で資金の還流と再投資が行われ、地域内で資金が循環していること。

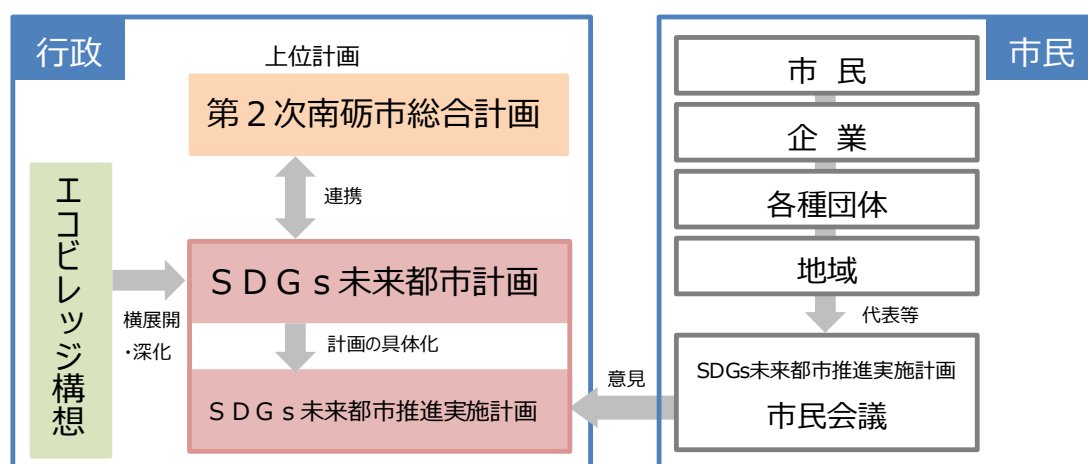
3. 推進実施計画の位置づけ

南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画は、「南砺市 SDGs 未来都市計画」で策定した 2030 年のあるべき姿を達成するためのロードマップとして、庁内に SDGs 未来都市推進本部を組織し、行政だけでなく、市民、企業、各種団体、地域などすべてが主体的に取り組んでいくために策定するものです。

「SDGs 未来都市計画」では、「エコビレッジ構想」での取組をベースに、地域内で横展開・深化させることで 2030 年のあるべき姿とその実現に向けた取組を策定しました。

本推進実施計画では多様な主体からの意見を反映するために「SDGs 未来都市推進実施計画市民会議」を開き、その意見を盛り込んでいきます。

さらに、市の最上位計画である「第 2 次南砺市総合計画」では、SDGs を時代の潮流ととらえており、「南砺市 SDGs 未来都市計画」や本推進実施計画との連携を図りながら、ビジョンの実現を目指すとしています。



「南砺市 SDGs 未来都市計画」

「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

南砺市の土徳文化を次世代に継承する取組や支え合いによるまちづくりの取組を通して、地域資源の循環や相互補完が可能となる人材育成プログラムや住民参加による自治組織形成を促進するとともに、これらを「南砺幸せ未来基金」の運営等により支えることで、SDGs 及び「南砺版エコビレッジ事業」を更に深化させ「一流の田舎」の実現を目指したものです。

「第 2 次南砺市総合計画」

2020 年 4 月からスタートする「第 2 次南砺市総合計画」では、自然や伝統、文化といった世界に誇れる財産を活かし、市民一人ひとりが互いに認め、支え合いながら行動していくことで、本市の豊さや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「一流の田舎」を将来像とし、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを目指しています。

また、時代の潮流に即し、「SDGs」や「Society5.0^{*10}」、「小規模多機能自治^{*11}」や「地域のストック資産^{*12}」という4つの視点を総合的・横断的に反映していくことで、目指すべきまちの姿の実現を図っていくこととしています。

«SDGs 未来都市推進実施計画市民会議»

「南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画」の策定にあたり、市民、企業、各種団体、地域等の多様なステークホルダーの意見を反映させるため、2019年8月に設置しました。関係諸団体の構成員、学識経験者、公募による者等の10人で構成されており、2019年12月～2020年3月の間に3回開催された市民会議にて、計画の策定に関して提言を行いました。

«市民まちづくりシンポジウム»

2019年10月に南砺市で開催された市民によるまちづくりシンポジウムでは、市内外からの参加者による10の分科会で意見交換が行われ、地域課題の解決に向けた議論をかさねることで以下のテーマについてまとめられました。

・土徳

私たちは、長い歴史の中で育まれてきたこの豊かな自然景観との共生を図りながら、健やかで美しい暮らしと祈り、そして常に感謝を絶やさない土徳文化を、しっかりと未来世代へ継承していくことが何よりも大切であると考えています。

・農業

私たちは、この豊かな農景観を未来世代に繋いでいくため、新しい経営の仕組みや技術を活用し、従来の取組を適切に見直しながら、地域の風土を活かしたいのちを育む農業を一層拡大し、次世代の担い手の育成と皆で誇りあう農の営みに努めていきます。

・芸術と産業

私たちは、日々の暮らしに根ざした多様な手仕事・モノづくりにこそ美が宿ると考え、南砺に根付く伝統芸能や祭りを子どもたちと一緒に次世代へ継承するとともに、都市との交流によって新たな創造を図ることで、これらに関わる南砺の人材が多く育つよう努めていきます。

・林業と自然

私たちは、この自然がもたらす森里川海の恵みを最大限感じ、活用していくため、上流から下流までの担い手のネットワークを見える化すると共に、森を創り、森を活かし、森に育てられる森林価値の最大化を図ることに努めます。

¹⁰ Society5.0：AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることによって実現する新たな未来社会の姿。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会を指す。

¹¹ 小規模多機能自治：おおむね小学校区域を範囲とした、小規模ながらも住民の積極的な参画・協働によって様々な機能をもった住民自治の仕組み。地域の実情や課題に応じて住民の福祉を増進するための取組を行う。

¹² スtock資産：「第2次南砺市総合計画」では、活用されていない公共施設や空き家・空き地などを指す。

・地域教育

私たちは、家庭、地域教育こそが主役であると大人たちの意識を変えて、先人が守り育ててきた地域の DNA^{*13}を次世代に繋ぎ、子どもたちの郷土への誇りと愛着をもった豊かな心と知恵を育む、人づくりを目指します。

・地域包括ケア

私たちは、全ての老若男女がこの地に誇りを持ち、笑顔があふれ、健やかに暮らしているより優しい地域とするため、声を掛け合い、おかげさま、ありがとうを交し合える取組みと併せて新たな交通手段の構築を進め、誰一人取り残さない社会の実現を目指します。

・観光

私たちは、南砺にしかない一流の田舎の暮らしを観ていただくとともに、幅広い方々の多面的かつ持続的な交流を行うことで、地域の誇りの醸成、そして生活の質の向上につながるよう取組んでいきます。

・基金と小規模多機能自治

私たちは、地域内分権を進め、住民自治の浸透と行政、市民、企業、銀行、学校等との協働^{*14}の新たなまつりごとを基盤とし、そこから見出した様々な地域課題を地域内での資源と意思ある志金の循環を最大限図りながら、新たな生業の創出と南砺らしい地域循環共生圏の構築を目指します。

・IT^{*15}

私たちは、通信技術等の進化を最大限活用し、南砺において最先端の情報の入手・交流が可能となる仕組み作りに注力し、次世代の教育・育成・交流を促進すると共に、防災等においてもレジリエント^{*16}な地域づくりに努めてまいります。

・遊び

私たちは、一流の田舎南砺が世界に誇れる豊かなふるさとであることを体感し、将来を担う子どもたちがこれからも暮らしていきたいと思える地域となるよう、南砺の恵み、原風景、美しさを活かした楽しい取組を皆で実践していきます。

¹³ DNA：俗に遺伝子のこと。また、先祖から子孫へ連綿と伝わるもの。

¹⁴ 協働：複数の主体が同じ目的のため、協力して共に働くこと。

¹⁵ IT：情報技術。特にコンピューターをベースとした情報システムをいう。

¹⁶ レジリエント：逆境などからすぐに立ち直れる、すぐに元気になるということ。

4. 推進実施計画で目指すあるべき姿

誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ 《世界に誇る一流の田舎》

(1) 南砺市の将来像

本市は「自然と共生し、地域資源を最大限に活用した様々な小さな循環が相互に連動し、支え合いながら自立するコミュニティモデル」を確立することを目指します。そのため自然や伝統、文化といった世界に誇れる財産を活かし、市民一人ひとりが互いに認め、支え合いながら行動していくことが必要です。「南砺」に暮らす私たちが、この土地の豊さや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「世界に誇る一流の田舎」を目指し、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを実現します。

南砺市が目指す「世界に誇る一流の田舎」とは、ここで暮らす誰もが地域に誇りを持ち、自分の言葉で地域を発信できるようになることです。地域が持つ伝統や文化、先人から受け継ぐ暮らしの知恵や技などを人から人へ伝えることにより、都市化や情報技術だけでは実現できない、自然との共生や人と人とのぬくもりある交流をもってつながる社会を目指します。そして、先人から受け継いだように、次世代を担う子どもたちに「一流の田舎」を目指す南砺市を引き継いでいきます。

(2) 三側面における将来像

(環境) 懐かしい暮らしを再評価し、自然と共生できる

自然との共生、再生可能エネルギーの導入、地域資源の活用などを取り入れた新たな暮らし方を提案する取組や次世代の若者を巻き込んだ地域コミュニティの堅持によって、将来を担う子どもたちがこれからも暮らしていきたいと思える地域を目指します。南砺の恵みや原風景、美しさを生かした取組を実践し、世界に発信できる社会を実現します。

(社会) あらゆる世代が安心して暮らすことができる

市内 31 地域づくり協議会を対象にした、「小規模多機能自治の推進」や「地域包括ケアシステム^{*17}の推進事業」等の取組を進めることで健やかに暮らせる地域を実現します。また、通信技術等を活用しながら、高齢化率の高い南砺市において、郷土への誇りや愛着、感謝の心を次世代に伝え、レジリエントな地域づくりに努めます。地区単位等の身近なコミュニティを基本に、人々が生涯を心豊かで安心して暮らすことができる社会を実現します。

さらには ESD^{*18}の考えを踏まえ「豊かな人間性」を育むために、知・徳・体の調和のとれた教育を推進し子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばしていきます。

¹⁷ 地域包括ケアシステム: 市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、保健、医療、介護、福祉及び生活支援・介護予防などが一体的に提供される取組。

¹⁸ ESD: Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育) の略。環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

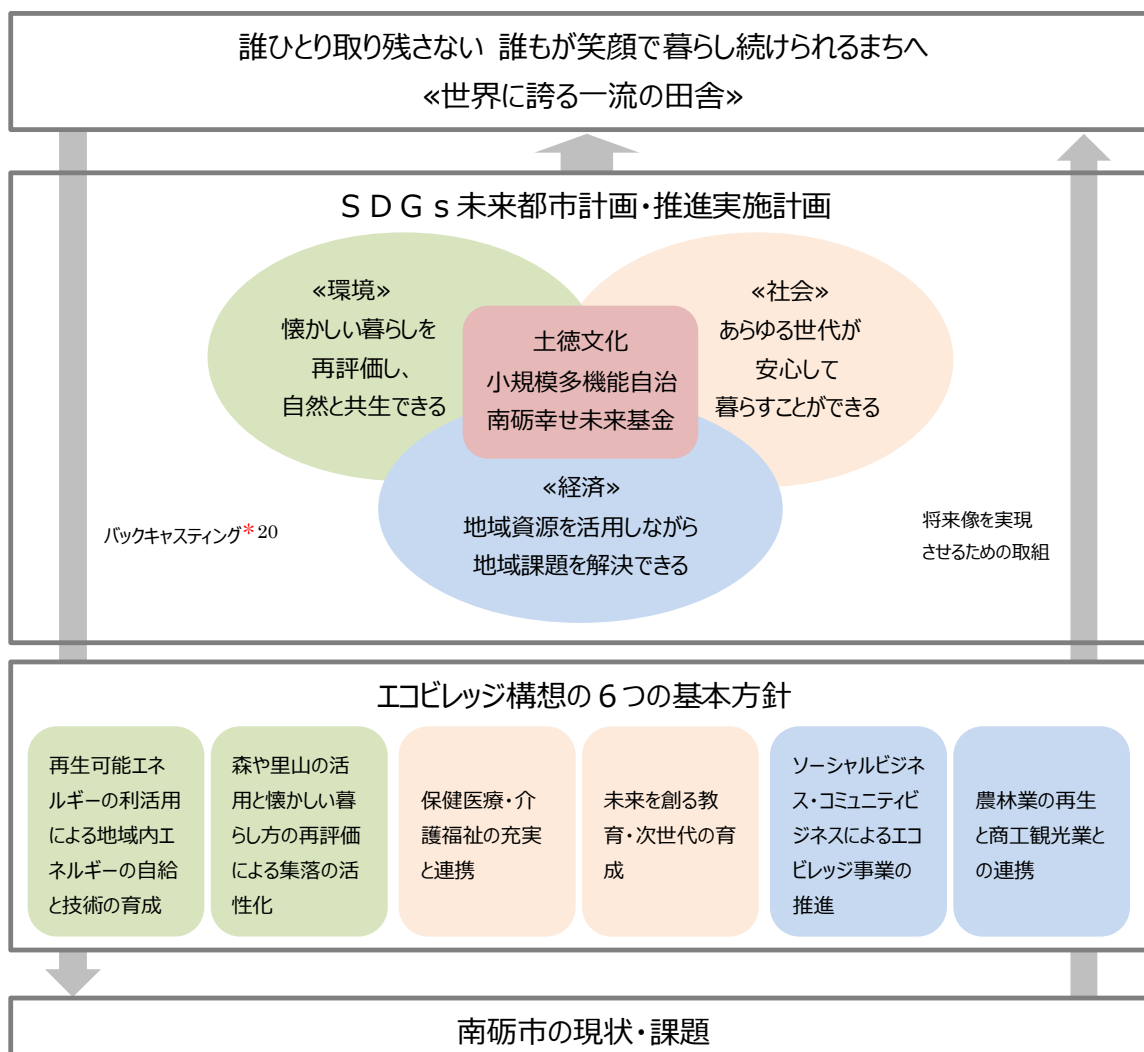
(経済) 地域資源を活用しながら地域課題を解決できる

人や自然、芸術文化など、南砺の風土が育んだ地域資源を活用しながら、地域課題の解決や地域活性化を推進するためのソーシャルビジネス・コミュニティビジネス^{*19}等を対象にしたローカルファイナンスの取組を進めていきます。そして、地域の誇りを醸成し、地域が自立し、活力を持ち続けることで、新しい価値を生み出せる社会を実現します。

(基盤) 南砺版地域循環共生圏の実装

SDGs に資する取組のすべてに良い影響を与え、三側面の調和を図り、原動力となる取組みとして、以下の3つを基盤としています。

- (1) 文化と教育の連携「南砺の土徳文化、支え合いのまちづくり」
- (2) 地域内分権による住民自治の再構築「小規模多機能自治の推進」
- (3) コミュニティファンドの創出と活用「南砺幸せ未来基金」



¹⁹ ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス：営利ではなく社会的課題や地域課題の解決を目標として展開する事業。

²⁰ バックキャスティング：未来のありたい姿から逆算し、現在において目標実現のために何ができるか考えること。

5. あるべき姿の実現に向けて

SDGsの推進に資する取組の位置づけとしては、「南砺版エコビレッジ事業」の世界への発信を強化し、2030年のあるべき姿を実現させていくことが重要と考えていることから、「南砺市エコビレッジ構想」で示した6つの基本方針に基づいて実施することとします。

将来像	三側面における将来像	6つの基本方針	施策
誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ	自然と共生できる 懐かしい暮らしを再評価し、暮らしを	【環境①】 再生可能エネルギーの活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成	(1) 森里川海の連携による環境保全 (2) 再生可能エネルギーの利活用
		【環境②】 森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化	(1) 田舎における暮らし方の再評価 (2) 森や里山の保全と活用 (3) 空き家対策とその活用
		【社会①】 保健医療・介護福祉の充実と連携	(1) 住民の生活を支える公共交通の構築 (2) 支え合い幸せに暮らせるまちの構築 (3) 結婚から妊娠、子育てまでの支援
		【社会②】 未来を創る教育・次世代の育成	(1) 地域の文化や歴史を守り、発信し、継承する (2) 未来を創る教育の推進 (3) 持続可能な教育基盤の整備
	地域資源を活用しながら 地域課題を解決できる	【経済①】 ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進	(1) 地域内経済の循環・自立 (2) 住民主体による課題解決の促進 (3) SDGsの普及・啓発
		【経済②】 農林業の再生と商工観光業との連携	(1) 次世代に繋ぐ農林水産業の推進 (2) 地場産業の支援・活性化 (3) なんとの魅力発信

6. 施策と事業

6つの基本方針に基づいた施策推進のため、行政が「第2次南砺市総合計画」等により計画している事業及び、今後検討すべき事業は以下とします。

環境

◎は、総合計画事業

①再生可能エネルギーの利活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成

(1) 森里川海の連携による環境保全

既存事業	検討すべき取組
資源ごみ常設ステーションの整備	地球温暖化対策実行計画（区域施策編）推進事業
サステナビリティボンド（ESG債）* ²¹ の購入を通じた国連持続可能な開発目標（SDGs）への貢献	海岸漂着物対策推進事業
	高齢者世帯デマンド* ²² ごみ収集
	食品ロスゼロ運動

(2) 再生可能エネルギーの利活用

既存事業	検討すべき取組
	木質ペレットボイラーの導入拡大推進
	エコビレッジ住宅ゾーン* ²³ 整備
	再生可能エネルギーの自給自足

②森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化

(1) 田舎における暮らし方の再評価

既存事業	検討すべき取組
ふるさとワーキングホリデー事業	お祭り応援隊
◎ 応援市民制度運営事業	
◎ 定住支援事業（転入及び持ち家奨励金）	
◎ 移住コンシェルジュ* ²⁴ 事業	
◎ 移住コーディネート事業（地域おこし協力隊サポート、移住体験ツアーの実施、体験ハウスの管理）	

²¹ サステナビリティボンド（ESG債）：サステナビリティボンドは資金の用途を環境・社会的問題の解決に貢献する事業に限定した債券。ESGは環境、社会、企業統治の英語の頭文字を取ったもので、ESG債はこれらの分野に積極的に取組む企業に投資する債権。

²² デマンド：需要。需要が生じたときにサービスを届ける。

²³ エコビレッジ住宅ゾーン：地域産材を地元の設計、施工により建築し再生可能エネルギー設備や家庭菜園などを合わせた自然共生を目指した住宅ゾーンであり移住・定住を促進していく。

²⁴ コンシェルジュ：案内や紹介などをはじめ、サポートしてくれる人あるいはサービス。

(2) 森や里山の保全と活用	
既存事業	検討すべき取組
◎ 森林・林業担い手育成事業（担い手育成講座の開催）	持続可能な森づくり（森林保全）
	森や里山の資源について6次化推進事業

(3) 空き家対策とその活用	
既存事業	検討すべき取組
◎ 地域空き家対策推進員設置事業（空き家情報の把握、マッチングの実施）	
空き家予測と地域検討事業	
◎ 空き家対策連絡協議会推進事業	
◎ 空き家バンク活用促進事業	

①保健医療・介護福祉の充実と連携

(1) 住民の生活を支える公共交通の構築

既存事業	検討すべき取組
◎ 地域内移動サービス実証実験事業（地域で自主的に取り組む地域内移動サービス）	公共交通のキャッシュレス決済対応
◎ なんバスで暮らそう事業（なんバスシルバーパス事業、とやまロケーションシステム）	公共交通の自動運転技術導入

(2) 支え合い幸せに暮らせるまちの構築

既存事業	検討すべき取組
◎ 学生健診事業（学齢期の肥満対策）	医療救急体制確保
◎ 介護人材雇用型訓練委託事業（対象：介護職員初任者研修修了者）	地域包括ケアシステムによる自立支援
◎ フレイル ^{*25} 予防事業（フレイルトレーナー養成）	ちよいボランティア
◎ 「あなたのからだをナビゲート」事業	

(3) 結婚から妊娠、子育てまでの支援

既存事業	検討すべき取組
◎ あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト（AIP48）事業	
◎ 婚活応援団なんとおせっ会プロジェクト事業	
早期結婚奨励金事業	
◎ 結婚等意識調査事業	
個人番号連携事業「なんとすこやか親子支援事業」	
◎ 妊娠・出産包括支援事業（南砺市型「ネウボラ ^{*26} 」推進事業）	
◎ 小児医療推進事業	
子育て応援制度（ひとり親世帯・低所得者層世帯への高校生通学定期券や医療費、入学、卒業祝い金の助成）	
◎ なんと！やさしい子育て応援企業認定制度事業	
◎ 子育て・親育ち応援事業	
◎ 働き方改革推進事業（ワークショップやシンポジウムの開催）	

²⁵ フレイル：加齢により心身が老い衰えた状態。

²⁶ ネウボラ：フィンランドの母子支援制度。妊娠期から子育て期に渡り切れ目ない支援をワンストップで行う。

②未来を創る教育・次世代の育成

(1) 地域の文化や歴史を守り、発信し、継承する	
既存事業	検討すべき取組
◎ 官学、官民連携事業（大学生等による地域課題解決に対する活動支援）	
善徳寺史料調査	
福野夜高祭・曳山行事調査	
井波伝建選定調査事業	
◎ ふるさと教育推進事業	
ユネスコ無形文化遺産情報発信事業	
「五箇山合掌の里」リノベーション事業	
◎ 五箇山茅場の造成補助事業	

(2) 未来を創る教育の推進	
既存事業	検討すべき取組
◎ 子どもの居場所づくり促進事業（多世代交流事業運営支援）	子どもの貧困対策
子どもの権利擁護、児童虐待防止対策	SDGs 教育プログラム推進事業
◎ 学校間をつなぐ遠隔協働学習事業	ESD の推進
◎ 外国人児童生徒支援事業	非認知スキル* ²⁷ 、課題解決型学習プログラムの導入
	エシカル消費* ²⁸ に対する教育
	カムバック to なんとプロジェクト
	ロジカルシンキング* ²⁹ 促進事業

(3) 持続可能な教育基盤の整備	
既存事業	検討すべき取組
◎ (仮称) 井口地域義務教育学校整備事業	小中一貫校の体制整備
◎ ICT* ³⁰ 機器整備事業（電子黒板機器及び電子黒板用パソコン）	5Gの利用促進
	強靱な情報インフラの整備

²⁷ 非認知スキル：意欲や協調性、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力など、IQテストや学力では測定できない個人の特性による能力。幼少期の体感的な活動によって養われる。

²⁸ エシカル消費：消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。

²⁹ ロジカルシンキング：論理的思考。一貫した筋道に沿って、主張と根拠を論理的に説明する思考法。

³⁰ ICT：情報通信技術。「Information and Communication Technology」の略。

①ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進

(1) 地域内経済の循環・自立	
既存事業	検討すべき取組
◎ なんと（SDGs）ポイント制度運営事業	企業版ふるさと納税の推進
ふるさと寄付事業	地域通貨の導入推進
◎ 地域おこし協力隊の地域への人材還流の推進事業	南砺版ソーシャルインパクトボンド* ³¹ 事業
◎ 地域の困りごと解決事業・副業応援市民プロジェクト	
◎ （仮称）なんと未来創造塾開催事業（地域ビジネス人材育成）	
◎ （再掲）応援市民制度運営事業	

(2) 住民主体による課題解決の促進	
既存事業	検討すべき取組
◎ 若者活躍ネットワーク創設事業	
◎ 事業化促進事業（地域課題解決支援）	

(3) SDGs の普及・啓発	
既存事業	検討すべき取組
◎ SDGs 推進事業（普及啓発活動の推進）	SDGs カフェ オールなんとSDGsパートナープラットフォーム* ³² 事業

②農林業の再生と商工観光業との連携

(1) 次世代に繋ぐ農林水産業の推進	
既存事業	検討すべき取組
◎ 散居村景観保全事業	オーガニック農業* ³³ の推進
侵入防止柵設置支援補助金	食料産業・6次産業化の推進
クマ生息環境管理事業補助金	
◎ 新規就農研修支援事業	
就農マッチングツアー事業（農業法人等への紹介）	
◎ （再掲）森林・林業担い手育成事業（担い手育成講座の開催）	
◎ なんと自然給食ものがたり事業	

³¹ ソーシャルインパクトボンド：2010年にイギリスではじまった新たな官民連携の手法の一つ。民間の活力を社会的課題の解決に活用するため、民間資金を呼び込み、成果報酬型の委託事業を実施する新たな仕組み。

³² プラットフォーム：システムやサービスの土台や基盤となる環境。

³³ オーガニック農業：化学肥料や農薬、遺伝子組み換え技術を使わずに、環境負荷を可能な限り低減した方法で行われる農業。

(2) 地場産業の支援・活性化	
既存事業	検討すべき取組
◎ 就活・雇用促進事業（求人活動支援）	
生活困窮者就労準備支援事業	
◎ 起業家育成支援事業	
◎ 南砺ブランド商品開発支援事業	
◎ 伝統的工芸品後継者育成支援事業	
◎ クリエイティブ産業振興・発信事業（さくらボ事業推進及びクリエイタープラザ利用促進）	
◎ 小規模事業者後継者支援事業	
◎ 空き家・空き店舗利用促進事業	

(3) なんとの魅力発信	
既存事業	検討すべき取組
◎ 観光誘客推進に向けた広域連携事業	サインの多言語化
◎ 観光客受入環境整備事業	
外国人観光客受入環境 ICT 活用事業 （AIチャットボット* ³⁴ ）	
井波八日町通り WiFi 整備	
◎ なんと！幸せのおすそわけキャンペーン事業	
◎ 南砺金沢線活用誘客促進事業（路線の一部を観光ルート化）	
アニメツーリズム* ³⁵ 推進事業	
◎ コンベション* ³⁶ 支援等事業	
宿泊施設立地促進助成事業	
◎ 山村留学定住事業	

³⁴ AIチャットボット：AIを活用した自動会話プログラム。チャットボットとは、チャット（会話）とボット（ロボット）を組み合わせた言葉。

³⁵ アニメツーリズム：アニメや漫画の作品の舞台となった土地や建物などを訪れる旅行のこと。

³⁶ コンベション：大規模な会議や集会のこと。

南砺版地域循環共生圏の実装

(1) 南砺の土徳文化、支え合いのまちづくり	
既存事業	検討すべき取組
◎ (再掲) ふるさと教育推進事業	(再掲) SDGs 教育プログラム推進事業
	(再掲) ESD の推進
	(再掲) 非認知スキル、課題解決型学習プログラムの導入
	(再掲) エシカル消費に対する教育
(2) 小規模多機能自治の推進	
既存事業	検討すべき取組
◎ 住民自治組織強化事業 (セミナーの開催)	自主財源確保に向けたコミュニティビジネス
◎ (再掲) 地域の困りごと解決事業・副業応援市民プロジェクト事業	人材育成
◎ 住民自治推進交付金 (地域づくり費 + 推進人件費) 事業	中間支援組織との連携強化
◎ (再掲) 事業化促進事業 (地域課題解決支援)	
(3) 南砺幸せ未来基金	
既存事業	検討すべき取組
南砺幸せ未来基金の支援	休眠預金の活用
◎ 地域内資金循環システム構築事業	クラウドファンディングの活用
	投融資制度の検討

第2章 具体的な取組

1. 全体のロードマップ

「誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまち」実現へのロードマップ

2020年～	2025年	～2030年
STEP 1		
【知る】 <ul style="list-style-type: none">・SDGsを理解し、地域の課題を知る。・「誰もが笑顔で暮らし続けられるまち」の姿を思い描ける。	【考える】 <ul style="list-style-type: none">・自分に何ができるか SDGs の視点で考える。・地域について語り合える「場」で、地域課題を共有する。	
STEP 2		
【行動する】 <p>市民、企業、各種団体、地域、行政のそれぞれができることから取組むことで、身近なところから SDGs の視点に立って行動する。</p>		
STEP 3		
【行動を拡大し繋ぎ合わせる】 <p>既存の事業を横断的に組み合わせたり、行政と市民、企業等が連携して取組んだりすることで相乗効果が生まれ、地域課題の同時解決を図る。</p>		

毎年度の評価（アンケート）、市民会議、市民意識調査により SDGs の認知度、取組状況の把握、市民会議における進捗管理、提案等を行う

5年間で1つのスパンに、2024年度の「第2次南砺市総合計画 後期計画」策定時に合わせて「SDGs 未来都市推進実施計画」の見直しを行う

- * 総合計画事業の中から「環境」「社会」「経済」の調和がとれた（とりうる）事業を中心に選定する。
- * 個別事業の K P I は総合計画の指標を準用する。

STEP 1

【知る】

- ・SDGs を理解し、地域の課題を知る。
- ・「誰もが笑顔で暮らし続けられるまち」の姿を思い描ける。

- ✓ 中学校・高校でのエコビレッジ部活動
- ✓ 祭りなど地域行事への参加
- ✓ 農林業の体験
- ✓ 都市との交流
- ✓ 先進事例の調査
- ✓ 高齢者等、地域でのヒアリング



そのための取組例

- ・SDGs ウィーク
- ・SDGs カレッジ
- ・イベントのポスター、名刺や名札で SDGs を P R
- ・SDGs シンポジウム
- ・桜ヶ池ネイチャースクール [市民活動]

取組の発展形

イベントを活用した SDGs の普及啓発

- スキヤキミーツザワールド 30 周年記念×SDGs ワークショップ×エシカル消費×SDGs ポイント

大規模イベント時に SDGs ブース出展をし、来場者への P R。スキヤキに縁のある国のフェアトレード商品の販売など気軽に SDGs に触れる機会を提供する。

ワークショップ等のイベント参加による SDGs ポイントの加算や SDGs ポイントをイベント内で使用できようにする。

【考える】

- ・自分に何ができるか SDGs の視点で考える。
- ・地域について語り合える「場」で、地域課題を共有する。

市民、企業、団体等が持続可能な社会を構築するために生活や仕事の中で行動を起こすきっかけづくりができる「場」をつくる。その「場」の中で地域課題を共有することで、解決方法を探す。



そのための取組例

- ・円卓会議
- ・SDGs プラットフォーム
- ・ステークホルダーミーティング
- ・企業・団体との連携協定
- ・分野ごとの協議会など
- ・まちづくり団体^{*37} [市民活動]
- ・地域づくり協議会課題解決事業 [市民活動]



SDGs 達成のアクション（行動）へ

³⁷ まちづくり団体：業種を超えた組織による人材育成やまちづくりなど幅広い活動を行う。

STEP 2

【行動する】

市民、企業、各種団体、地域、行政のそれぞれができることから取り組むことで、身近なところから SDGs の視点に立って行動する。

- ・（市民ができること）家の中や外、職場・学校、地域等でのそれぞれの取組を推進する。

【家の中でできること】

- 家事や子育ての分担について話し合おう
- 水を出しっぱなしにしないようにしよう
- トイレの水を流すときは大小のレバーを使い分けよう
- 日頃から節電を心がけよう
- 太陽光や木質資源などの再生可能エネルギーを活用しよう
- 食べ残しや作り過ぎを減らし、食品ロスをなくそう



【家の外でできること】

- 地元の農産物を購入しよう
- 健康診断や予防接種を受けよう
- 鉄道やバスなど、公共交通機関で移動しよう
- プラスチック製品の使用を控えよう
- マイバックを使おう
- 資源回収を実施しよう



【職場・学校でできること】

- 貧困の現状や原因について学ぼう
- 働き方改革を実践しよう
- 友だちや同僚と仲良くしよう
- 開発途上国への支援について学ぼう
- 新しい技術について調べよう
- 世界でどんなことが起きているか調べよう



【地域でできること】

- 地域社会で学ぶ機会を増やそう
- お互いを認め、相手を大切にすることを心がけよう
- 差別的な慣行をなくそう
- 災害時などに助け合えるよう、住民間の絆を深めよう
- 子ども会や自治会活動などに参加してみよう
- SDGsの達成に向けたイベントなどに、積極的に参加しよう



- ・（企業ができること）企業活動のなかでそれぞれの取組を推進する。

【企業活動でできること】

- 資源や廃棄物の削減・再使用・再利用、環境に配慮した原材料の調達や製品作り
- 温室効果ガスの排出の削減、再生可能エネルギーの利用
- 高齢者や障がい者の雇用環境の充実と雇用 ○テレワーク、サテライトオフィス
- CSR^{*38}、CSV^{*39}の実施（地域コミュニティへの参画、学校教育への協力、地域への寄附などの地域貢献活動）



³⁸ CSR：企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility)。企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方。

³⁹ CSV：共通価値の創造(Creating Shared Value)。企業が社会課題等に主体的に取り組むことで、経済的価値を創造しながら、社会的価値も創造すること。

- ・（行政ができること）総合計画等で定めたSDGsの推進に資する取組を推進する（第1章6参照）。また、多様な主体と行政が連携し、地域課題に取り組むことにより課題解決に努める。

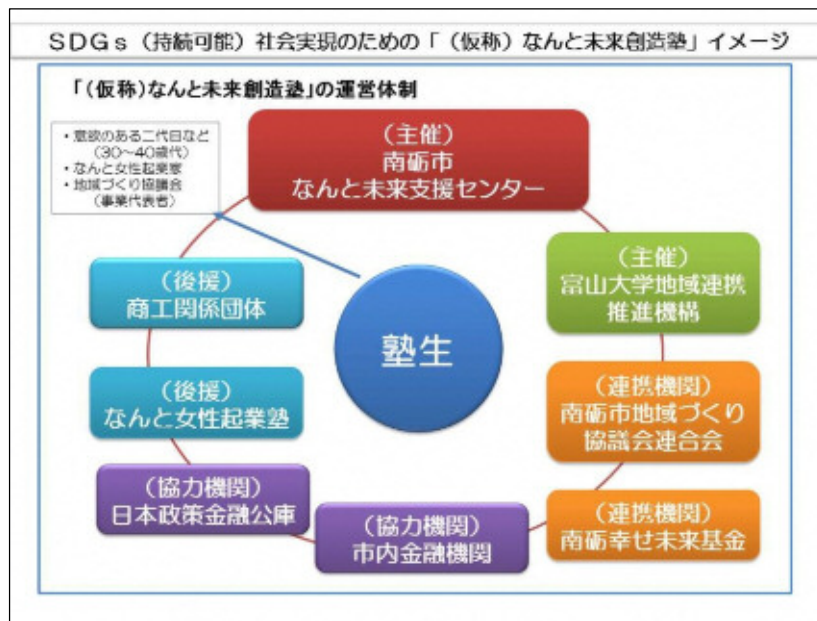
～取組例～

●（仮称）なんと未来創造塾

富山大学や各地域づくり協議会と連携して、将来各地域で起業を目指す若者を対象にした塾を開催する。

《連携する多様な主体》

- ・地域づくり協議会連合会
- ・南砺幸せ未来基金
- ・市内金融機関
- ・日本政策金融公庫
- ・なんと女性起業塾
- ・商工関係団体
- ・なんと未来支援センター
- ・富山大学

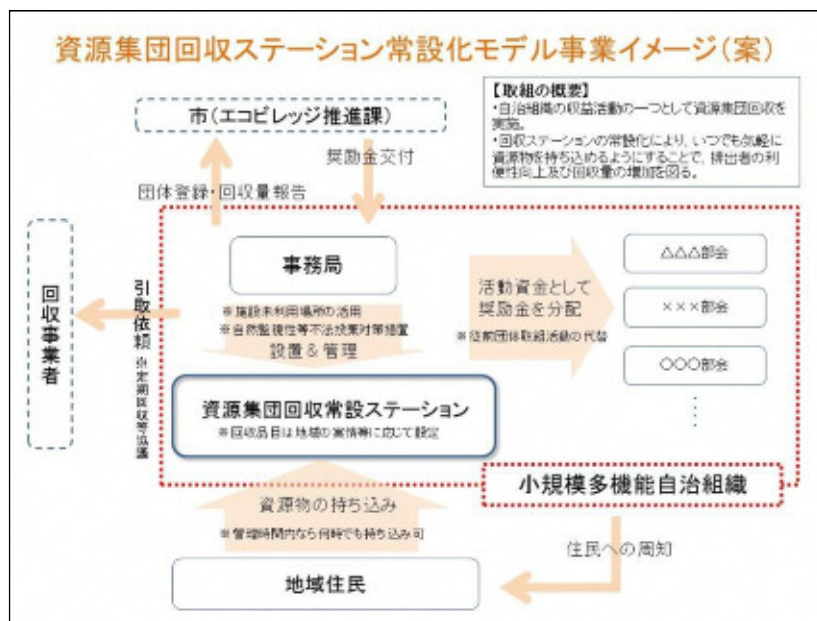


●資源集団回収常設ステーション

家庭ごみ排出調査において可燃ごみに含まれる紙類や布類が他自治体に比べ多い傾向があり資源集団回収の強化が求められている。資源物回収量の増加策としていつでも持ち込めるステーションの体制を構築し可燃ごみの減量を促す。また常設化によって収集業者の平日回収が可能となり、三方よしの制度である。

《連携する多様な主体》

- ・地域づくり協議会
- ・資源物収集業者



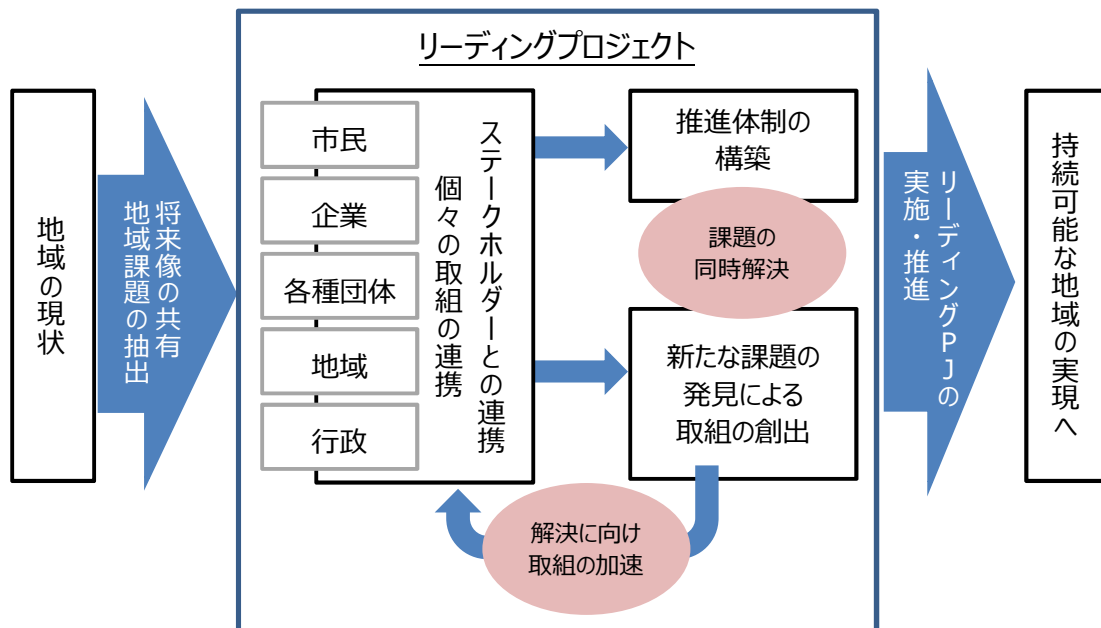
STEP 3

【行動を拡大し繋ぎ合わせる】

既存の事業を横断的に組み合わせたり、行政と市民、企業等が連携して取組んだりすることで相乗効果が生まれ、地域課題の同時解決を図る。

- ・「環境」「社会」「経済」の調和のとれたまちづくりのため、市民、企業、各種団体、地域、行政等で個々が推進している取組を分野横断的に連携することで、課題解決に向けた動きを加速させる「リーディングプロジェクト」を設定し、計画を積極的に推進する。
- ・「リーディングプロジェクト」とは、南砺市民が一丸となり地域課題の解決に向けて、様々なステークホルダーと協働しながら進めていく先進的なプロジェクトである。プロジェクトの実施においては、ステークホルダーとの連携を図りながら推進体制を構築し、課題解決に向けて個々の取組だけでは得られない効果を生み出す。

【リーディングプロジェクトイメージ図】



【リーディングプロジェクト案】

地域課題の解決に向けて、南砺市民が一緒に進めていく「リーディングプロジェクト案」として、以下の11案を挙げる。今後は様々な主体が中心となり、多様なステークホルダーと連携しながら、SDGsの観点から地域課題の解決に取り組む様々なプロジェクトを創出し、SDGsの推進を目指す。

① 地域資源を活用し海を汚染から守る	
② 豊かな農景観を守る	
③ 災害時の地域を支える再生可能エネルギー	
④ 誰もが安心して暮らせるまちづくり	
⑤ 南砺でワーケーション* ⁴⁰	
⑥ 次世代に伝える生きる力	
⑦ SDGsポイントも組み込んだ地域通貨システムの構築で地域内経済循環を図ろう	
⑧ 南砺で（田舎）体験 また、これ	
⑨ オーガニック農業で食育と関連産業の振興	
⑩ SDGs未来都市実現に向けた礎プロジェクト	
⑪ 成果報酬型の新たな地域づくりの導入 （南砺版ソーシャルインパクトボンド）	

⁴⁰ ワケーション：ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語。普段の職場を離れ、観光地やリゾート地等で働きながら休暇を取る、新たな働き方。

2. リーディングプロジェクト案

市民、企業、各種団体、地域、行政が連携する分野を横断したリーディングプロジェクトを設定し、複数の目標達成や相乗効果につながる取組を積極的に推進します。

リーディングプロジェクト① 地域資源を活用し海を汚染から守る

目的	森里川海の連携により川上でのごみの発生抑制を行い海洋汚染対策につなげる。		
概要	河川漂流ごみの追跡調査をもとに環境教育教材を作成し、様々な体験を通して環境教育を実施し理解を深める。豊かな森や川が、持続可能な海洋を守ることにつながるよう、意識の醸成を図る。		
既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例		
<ul style="list-style-type: none"> ●南砺ブランド商品開発支援事業 ●クリエイティブ産業振興・発信事業 	◇小・中・高校等の学校による環境教育 例) 河川等のごみ回収体験、プラスチック再利用等の学習		
検討すべき取組	◇漂流ごみの追跡調査を行うドローンの開発と活用		
<ul style="list-style-type: none"> ●海岸漂着物対策推進事業 ●ESDの推進 	◇企業によるプラごみ等を活用した容器包装の開発 例) 市の魅力を発信できるブランド商品の開発		
効果	◇富山県呉西6市連携協議会と連携し、マイクロプラスチックの発生抑制に取組む		
<ul style="list-style-type: none"> ●環境に対する意識を醸成し、身近なところからごみの発生抑制に取組む ●新たな産業の創出 	◇地域づくり協議会、環境保健協議会の取組		
ゴール		キーワード	【林業・自然】・【地域教育】・【IT】

リーディングプロジェクト② 豊かな農景観を守る

目的	剪定枝等の廃棄物を堆肥化・再利用し、農地を有害鳥獣から守り、豊かな農景観保存の促進と同時に、森林や林業に対する理解を深める。		
概要	屋敷林の管理・枝打ち、放任果樹の伐採等で発生した剪定枝などの廃棄物を堆肥化できる設備を設置し受け入れを行うことで野外焼却を減少させ、堆肥は農業者に販売する。		
既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例		
<ul style="list-style-type: none"> ●散居村景観保全事業 ●侵入防止柵設置支援補助金 ●森林・林業担い手育成事業 	◇機械メーカー等が剪定枝を堆肥化する設備の開発を行う		
検討すべき取組	◇農業者は堆肥を購入		
<ul style="list-style-type: none"> ●オーガニック農業の推進 	◇林業者は農景観保全のための屋敷林管理に協力		
効果	◇地域住民は、果樹を放任しないことや、森林作業の体験を行う		
<ul style="list-style-type: none"> ●有害鳥獣から田畑を守る ●森林・林業についての知識を高める ●林業者、機械メーカー、農業者の連携を図りながら、持続可能な景観づくりに取組む 	◇地域づくり協議会の取組		
ゴール		キーワード	【農業】・【林業・自然】

リーディングプロジェクト③ 災害時の地域を支える再生可能エネルギー

目的	災害時のエネルギー確保と情報入手手段としてのインフラ整備により防災体制を確保
概要	電力が途絶する災害時に備え再生可能エネルギーを導入し非常時に備える。災害時にはSNS等が情報を入手する最大の手段となるため強靱な情報通信網を整備し発生時にも情報弱者を生まないう努める。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例		
●ふるさと教育推進事業	◇市民、事業所、学校での再生可能エネルギーの利用促進の取組		
検討すべき取組	◇企業による情報インフラ整備への協力		
●再生可能エネルギーの自給自足 ●強靱な情報インフラの整備	◇災害時の対応など、地域づくり協議会の取組		
効果			
●地域資源の有効活用の意識の高まり ●再生可能エネルギー利用の理解を深め、自然との共生を意識			
ゴール	7 持続可能なエネルギー 9 産業・科学技術イノベーション 11 持続可能な都市とコミュニティ	キーワード	【土徳】・【地域教育】・【IT】

リーディングプロジェクト④ 誰もが安心して暮らせるまちづくり

目的	認知症フレンドリー社会の構築を目指し認知症の方が生きがいをもって暮らせる仕組みを創る。
概要	認知症フレンドリー社会の構築のためモデル地区を設定し、買物支援や居場所づくり、地域の足の確保など協働で仕組みづくりを行う。また認知症サポーター養成講座と共に14歳の挑戦を活用し、地域の企業や組織へ意識の醸成を図る。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例		
●住民自治組織強化事業 ●地域内移動サービス実証実験事業 ●なんバスで暮らそう事業	◇交通機関 ◇金融機関 例) 利用しやすい仕組みづくり ◇福祉・医療機関 例) 地域との連携、居場所づくりの支援 ◇小売店等の商業施設 例) 買い物支援 ◇地域づくり協議会		
検討すべき取組	◇小・中学校 例) 認知症サポーター養成講座、14歳の挑戦 ◇民間企業 例) 学生の受入れ、福祉との連携 ◇全国団体（認知症未来共生ハブ等）		
●公共交通のキャッシュレス決済対応 ●地域包括ケアシステムによる自立支援 ●医療救急体制確保 ●高齢者世帯デマンドごみ収集			
効果			
●地域課題の共有 ●関連機関との連携による、地域で支え合う仕組みづくり ●マイカーに頼らず移動できる仕組みづくり ●企業や組織、地域住民の意識の醸成			
ゴール	1 持続可能な社会を築く 2 健康な生活を送る 3 持続可能な都市とコミュニティ 5 性別平等を実現する 6 環境と気候変動に適合させる 11 持続可能な都市とコミュニティ 17 気候変動に適合させる	キーワード	【地域包括ケア】

リーディングプロジェクト⑤ 南砺でワーケーション

目的	南砺市内にある空き家を整備し、県外企業等のワーケーション施設としての利用を促進する。また、受け入れた県外企業の社員が地域で交流を深めることで、関係人口の創出や拡大を目指す。
概要	空き家や空き店舗を活用し、情報インフラを整備することで、全国的に取組が始まっているワーケーションの受け入れを行う。また、地域資源を活かし、観光や文化交流、アクティビティ体験、市民との交流など期間限定で南砺の暮らしを楽しんでもらう。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例
<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさとワーキングホリデー事業 ●空き家バンク活用促進事業 ●空き家・空き店舗利用促進事業 ●観光誘客推進に向けた広域連携事業 	<ul style="list-style-type: none"> ◇県外のテレワークやリモートワークを推奨する企業 ◇地域外の人を対象にした田舎暮らしを体験できるワークショップ等の開催 例) 地元の祭り、伝統工芸、農業など、半～1日程度での体験 ◇各種アクティビティを提供する事業者 例) スポーツ、セラピー、リゾート等 ◇地域づくり協議会 ◇ワーケーションを推進する全国団体等
検討すべき取組	
<ul style="list-style-type: none"> ●強靱な情報インフラの整備 	
効果	
<ul style="list-style-type: none"> ●地域資源の見直し、新たな企画 ●田舎暮らしの魅力の発信 ●観光情報等の発信 ●空き家や空き店舗の活用 ●情報インフラ整備による受け入れ態勢強化 ●働き方改革の推進 ●テレワーク、リモートワークを活用し、バランスの良い働き方の実現 	
ゴール	
キーワード	【観光】・【IT】・【遊び】

リーディングプロジェクト⑥ 次世代に伝える生きる力

目的	子どもたちが幼少期に地域の文化に触れることで、忍耐力やプロジェクト遂行能力、コミュニケーション能力などの現代の子どもたちに欠けている非認知スキルを養い、生きる力を身につける。
概要	子どもと大人が同時に楽しめるような仕掛けをつくり、非認知スキルを高めると同時に世代間の交流を図る。また南砺の民謡や踊りの伝承も併せて行うことで文化の継承にもつなげる。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例
<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの居場所づくり促進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ◇幼稚園・保育所等 例) 地域の祭り等の体験、地域のお年寄りとの交流 ◇放課後支援センター 例) 教員OBなどのボランティア ◇交流センターでの市民の様々な活動 ◇民謡や踊りなど伝統芸能を伝承する団体 ◇地域づくり協議会
検討すべき取組	
<ul style="list-style-type: none"> ●非認知スキル、課題解決型学習プログラムの導入 ●ちよいボランティア 	
効果	
<ul style="list-style-type: none"> ●世代間の交流が図られ、あらゆる世代の居場所づくりにつながる ●地域に伝わる文化を継承できる 	
ゴール	
キーワード	【土徳】・【地域教育】・【遊び】

リーディングプロジェクト⑦

SDGs ポイントも組み込んだ地域通貨システムの構築で地域内経済循環を図ろう

目的	SDGs 活動を推進し、SDGs ポイントの市内での利用促進を図る。またキャッシュレス化で公共交通の利便性を高め、二酸化炭素排出抑制にも繋げる。
概要	SDGs 推進に資する活動の参加者に対し、市内での商品購入やサービス購入、また公共交通に使用できるポイントを付与する。また公共交通のキャッシュレス化をすすめると同時にポイントでの乗車を可能にすることによって利便性を高め二酸化炭素排出抑制にも繋げる。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例
●なんと (SDGs) ポイント制度運営事業	◇SDGs 活動者による事業実施、参加者へのポイント付与
検討すべき取組	◇市内業者による SDGs ポイント取り扱い
●オールなんと SDGs パートナープラットフォーム事業	◇公共交通事業者のキャッシュレス対応
●地域通貨の導入推進	◇地域づくり協議会
●公共交通のキャッシュレス決済対応	◇地域住民の SDGs 活動への参加、SDGs ポイントの利用
効果	◇南砺幸せ未来基金
	◇地域金融機関
●SDGs 活動の推進	<pre> graph LR A[SDGs 活動 + ポイント付与] --> B[SDGs ポイントの利用] B --> C[効果] </pre>
●ポイント利用による域内消費の推進	
●公共交通の利便性の向上、二酸化炭素の抑制	
ゴール	
キーワード	【土徳】・【基金・小規模多機能自治】・【IT】

リーディングプロジェクト⑧

南砺で (田舎) 体験 また、これ

目的	ふるさと納税を契機に南砺の (田舎) 体験者を増やし、関係人口の拡大となんとの魅力の情報発信を図る。
概要	ふるさと納税返礼品の各種田舎体験を通して、関係人口の拡大を図る。参加者には、SNSで南砺の魅力の情報発信を行い、応援者になってもらう。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例
●ふるさと寄付事業	◇地域外の人を対象にした田舎暮らしを体験できるワークショップ等の開催
●なんと！ 幸せのおすそわけキャンペーン事業	例) 地元の祭り、伝統工芸、農業など、半～1日程度での体験
検討すべき取組	◇各種アクティビティを提供する事業者
●オーガニック農業の推進	例) スポーツ、セラピー、リゾート等
●応援市民登録制度	◇地域づくり協議会
●お祭り応援隊	
効果	<pre> graph TD A[ふるさと寄付事業] --> B[なんと！ 幸せのおすそわけ キャンペーン事業] B --> C[オーガニック農業の推進 応援市民登録制度 お祭り応援隊] C --> A </pre>
●ふるさと納税の利用拡大	
●体験イベントで関係人口の拡大	
●なんとの魅力の情報発信	
ゴール	
キーワード	【観光】・【基金・小規模多機能自治】・【IT】・【遊び】

リーディングプロジェクト⑨

オーガニック農業で食育と関連産業の振興

目的	オーガニック農業（有機農業）で、「安全で質の高い食べ物の生産」「環境を守る」「地域自給と循環」などを旨とする。またアグリツーリズムにより、交流人口の拡大や農業の多角化・強化を図る。
概要	小中学校学校保育園にオーガニックを含む地場産食材を使った給食を提供する。また教育プログラムの中で農業体験メニューを盛り込み安全な食への意識の醸成を図る。さらには農家食堂、観光農園化を図り農のテーマパークとしてアグリツーリズムを広くPRし、集客を図る。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例		
<ul style="list-style-type: none"> ●なんと自然給食ものがたり ●観光誘客推進に向けた広域連携事業 ●なんと！幸せのおすそわけキャンペーン事業 	<ul style="list-style-type: none"> ◇オーガニック農業者（法人・個人） ◇保育園、小学校、中学校での地場食材の給食の提供、食育の実施 ◇農家食堂、観光農園など、農のテーマパークでアグリツーリズムの実施 ◇観光協会、観光業者 ◇地域づくり協議会 ◇高校生のエコビレッジ部活動での体験 		
検討すべき取組	<ul style="list-style-type: none"> ◇オーガニック農業の推進 ◇SDGs教育プログラム推進事業 ◇ESDの推進 ◇食料産業・6次産業化の推進 		
効果	<p>・なんと自然給食ものがたり ・SDGs教育プログラム推進事業 ・ESDの推進</p> <p>・オーガニック農業の推進</p> <p>・食料産業・6次産業化の推進 ・観光誘客に向けた広域連携事業 ・なんと！幸せのおすそわけキャンペーン事業</p>		
ゴール		キーワード	【農業】・【地域教育】・【観光】

リーディングプロジェクト⑩

SDGs 未来都市実現に向けた礎プロジェクト

目的	様々なステークホルダーが連携し、住民が自発的に地域の課題解決に取り組む、地域全体で稼ぐ手法を身に付け、自立していく「持続可能な地域社会」の形成を目指す。
概要	文化と教育の連携、住民自治の再構築、コミュニティファンドによる地域づくり支援を行う。

既存事業	参加が期待されるステークホルダーとその取組例		
<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと教育推進事業 ●山村留学定住制度 ●地域の困りごと解決事業・副業応援市民プロジェクト事業 ●住民自治推進交付金事業 ●事業化促進事業 ●（仮称）なんと未来創造塾開催事業 ●地域内資金循環システム構築事業 ●SDGs推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ◇南砺市商工会 ◇ハローワークとなみ ◇近隣大学 ◇地域金融機関 ◇認可外保育施設 ◇地域新聞社 ◇住民代表 ◇地域おこし協力隊 		
効果	<p>・地域の困りごと解決事業・副業応援市民プロジェクト事業 ・住民自治推進交付金事業 ・事業化促進事業</p> <p>●文化と教育の連携 ・ふるさと教育推進事業 ・山村留学定住制度 ・SDGs推進事業</p> <p>●住民自治の再構築</p> <p>●コミュニティファンドによる地域づくり支援 ・（仮称）なんと未来創造塾開催事業 ・住民自治組織強化事業 ・地域内資金循環システム構築事業</p>		
ゴール		キーワード	【土徳】・【地域教育】・【基金・小規模多機能自治】・【遊び】

リーディングプロジェクト⑪

成果報酬型の新たな地域づくりの導入 (南砺版ソーシャルインパクトボンド)

目的	既存の行政の補助金等を成果報酬型に変えることにより、政策実現の可能性を高める。
概要	成果報酬型の補助金を実装する。成果が評価されるまで、必要な資金を南砺幸せ未来基金と協働で調達することにより、市民の応援団を増やす。補助金改革の一助にもなる。

検討すべき取組	参加が期待されるステークホルダーとその取組例
●南砺版ソーシャルインパクトボンド事業	◇南砺幸せ未来基金 ◇なんと未来支援センター ◇地域金融機関 ◇地域づくり協議会 ◇まちづくり団体
効果	<div data-bbox="598 622 1401 1191" data-label="Diagram"> <p>主なSIB推進体制</p> </div>
ゴール	
キーワード	【土徳】・【地域教育】・【基金・小規模多機能自治】・【遊び】

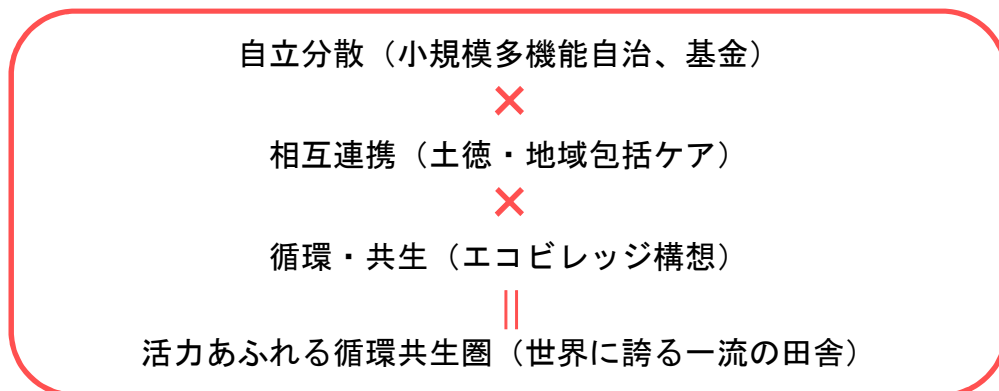
第3章 今後の展望

本市は2013年3月に「小さな循環による地域デザイン」を基本理念として策定した「南砺市エコビレッジ構想」や2015年9月に策定した「南砺幸せなまちづくり総合戦略」によって“本当の豊かさとは？”ということを追求してきました。

その成果の一つが2019年7月の「SDGs 未来都市」の選定につながりました。

本市の「SDGs 未来都市」のテーマは『「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～』としています。この中で示された“南砺版地域循環共生圏”とは、様々な主体が生き生きと活動し、目の前の課題にチャレンジし、それをネットワーク化することで大きな動きにつなげていこうとする働きです。

そのことを「SDGs 未来都市計画」の中では次のように表しました。



この「南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画」はまさしく上記の数式を達成するための実行の第一歩となるべく策定したものです。

市民、企業、各種団体、地域、学校等にはそれぞれにとっての課題を抱えています。

まずは目の前の課題を改めて意識してみてください。そしてそれを解決するためにはどうすればよいか考えてみてください。課題を解決するために相談者や協力者を求める必要が出てくるかもしれませんし、新たな知恵や技術、そして地域内の志金を活用することが必要となってくるかもしれません。

そのことがきっかけとなって新たなつながりも生まれることもあるでしょう。そうした様々なつながりの連鎖や行動の積み重ねが、「活力あふれる循環共生圏（世界に誇る一流の田舎）」を達成することになっていきます。さらにはそれが、SDGs という国際目標の達成につながっていくことになっていくことを実感、共感していきましょう。

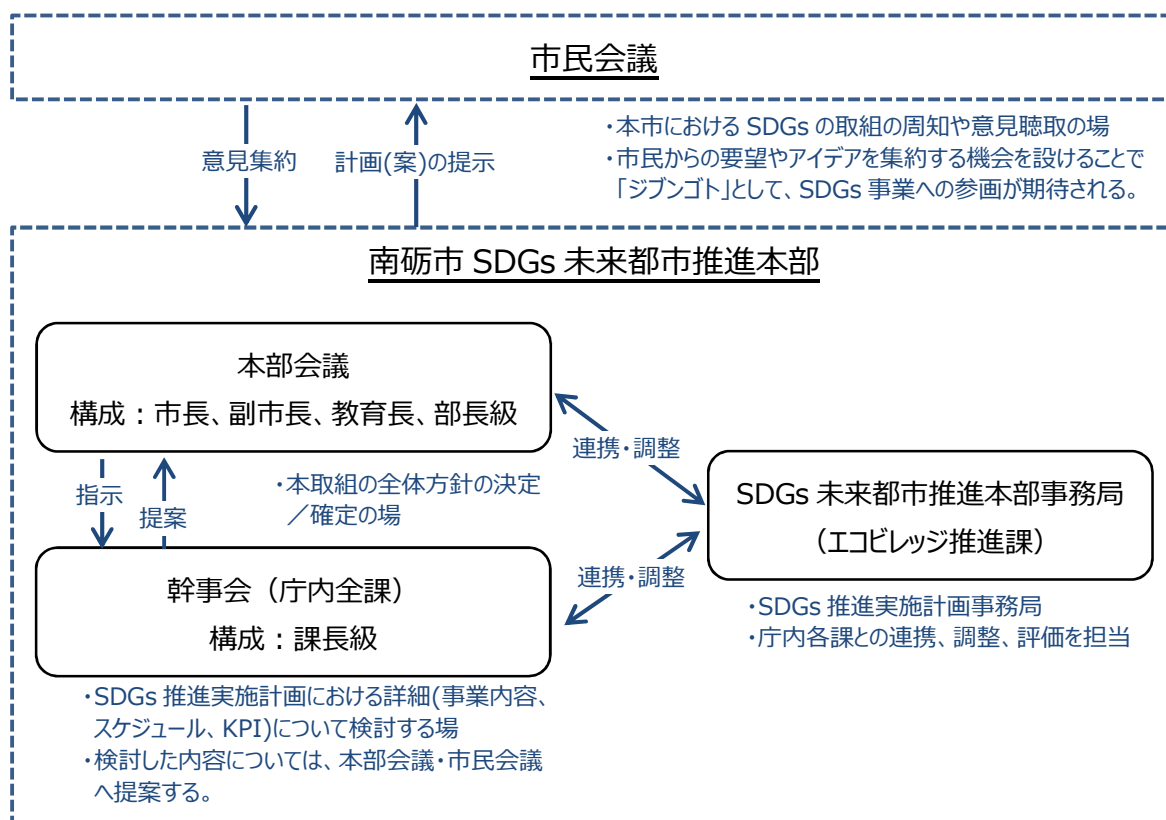
まずはできることから第一歩を踏み出してください。それが次世代に拓く南砺の未来を創ります。

資料編

1. 南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画の策定経過

年月日	内容
令和元年 11 月 18 日	SDGs 未来都市推進本部 第 1 回幹事会
令和元年 11 月 25 日	SDGs 未来都市推進本部 第 1 回本部会議
令和元年 12 月 13 日	SDGs 未来都市推進本部 第 1 回市民会議
令和 2 年 2 月 7 日	SDGs 未来都市推進本部 第 2 回幹事会
令和 2 年 2 月 14 日	SDGs 未来都市推進本部 第 2 回市民会議
令和 2 年 2 月 25 日	SDGs 未来都市推進本部 第 2 回本部会議
令和 2 年 3 月 13 日	SDGs 未来都市推進本部 第 3 回市民会議

2. 南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画の策定体制図



3. 南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画市民会議設置要綱

○南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画市民会議設置要綱

令和元年 8 月 28 日

告示第 23 号

(設置)

第 1 条 南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画（以下「計画」という。）の策定に当たり、市民、企業、各種団体等の多様なステークホルダーの意見を反映させるため、南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 市民会議の所掌事項は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 計画の策定に関して提言を行うこと
- (2) 前号に掲げるもののほか、計画の策定に関し市長が必要と認める事項

(組織)

第 3 条 市民会議は、委員 10 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 公募による者
- (2) 関係諸団体の構成員
- (3) 学識経験者
- (4) 前 3 号に掲げる者のほか、市長が必要と認めるもの

(任期)

第 4 条 委員の任期は、前条第 2 項の規定による委嘱の日から計画の策定が終了した日までとする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 市民会議に委員長及び副委員長各 1 人を置く。

- 2 委員長は委員の互選によりこれを定め、副委員長は委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 3 委員長は、会務を総理し、市民会議を代表する。
- 4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、副委員長がその職務を代理する。

(会議)

第 6 条 市民会議の会議（以下「会議」という。）は、委員長が必要に応じて招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

(庶務)

第 7 条 市民会議の庶務は、市民協働部エコビレッジ推進課において処理する。

(その他)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、市民会議の運営に関し必要な事項は、委員長が市民会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公表の日から施行する。

(招集の特例)

2 最初の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(この告示の失効)

3 この告示は、計画の策定が終了した日限り、その効力を失う。

4. 「南砺市SDGs未来都市推進実施計画市民会議」委員名簿

No	氏名	所属等	備考
1	松本 久介	南砺市地域づくり協議会連合会 会長	
2	南 眞司	南砺幸せ未来基金、なんと未来支援センター理事長	
3	西村 大仁郎	(公社)となみ青年会議所 理事長	
4	武部 範代	南砺市連合婦人会会長	
5	林 紀孝	南砺市教育委員会 委員	
6	沼口 千尋	南砺市PTA連絡協議会 家庭教育委員長	
7	村松 一	(一社)リバースプロジェクト代表	
8	吉澤 保幸	南砺市政策参与	委員長
9	島田 優平	南砺森林資源利用協同組合 副理事長	公募
10	浦井 啓子	人づくり・学び舎 代表	公募

5. SDGs 未来都市推進本部員名簿

本部員（13名）

区 分	役 職	氏 名
本部長	南砺市長	田中 幹夫
副本部長	南砺市副市長	齊藤 宗人
	南砺市教育長	松本 謙一
本部員	市長政策部長	上口 長博
	市長政策部担当部長	柴 雅人
	市民協働部長	川森 純一
	市民協働部担当部長	荒木 信人
	ブランド戦略部長	芝井 広
	ふるさと整備部長	窪田 仁
	議会事務局長	武部 輝夫
	教育部長	村上 紀道
	地域包括医療ケア部長	小森 典
	地域包括医療ケア部担当部長	井口 一彦

事務局（6名）

区 分	役 職	氏 名
事務局長	エコビレッジ推進課長	久保 剛志
事務局員	エコビレッジ推進課環境保全係長	金兵 佳朗
	エコビレッジ推進課環境保全係	豊川 諒
	エコビレッジ推進課エコビレッジ推進係長	寺田 俊一
	エコビレッジ推進課エコビレッジ推進係	藤田 智晃
	エコビレッジ推進課エコビレッジ推進係	加藤 修雅

6. S D G s 未来都市推進本部幹事会名簿

幹事（28名）

区分	役職	氏名
幹事	総務課長	長岡 芳典
	地方創生推進課長	竹中 雅裕
	情報政策課長	上野 容男
	財政課長	山田 智紀
	行革・施設管理課長	石崎 修
	検査室長	佐々木隆
	市民生活課長	島崎 博美
	税務課長	沖田 澄夫
	南砺で暮らしません課長	市川 孝弘
	農林課長	船藤 統詞
	商工課長	岩佐 崇
	企業誘致推進室長	本田 幸雄
	交流観光まちづくり課長	米澤 正好
	文化・世界遺産課長	此尾 治和
	建設課長	野村 功
	都市計画課長	吉田 敏一
	上下水道課長	加藤 仁
	会計管理者・会計課長	石橋 正紀
	監査委員事務局長	浦井 雅勝
	教育総務課長	氏家 智伸
	生涯学習スポーツ課長	桜野 高弘
	スキー国体推進室長	水上 武司
	こども課長	武田 秀隆
	医療課長	藤井 博之
	地域包括ケア課長	中家 立雄
	地域包括支援センター長	松田 哲也
	福祉課長	吉田 孝幸
	保健センター所長	河原 洋子

※事務局はS D G s 未来都市推進本部会議に同じ

南砺市 S D G s 未来都市推進実施計画

令和 2 年 6 月

発行：南砺市

編集：南砺市 エコビレッジ推進課

〒932-0292

富山県南砺市井波 520 番地 井波庁舎 3 階

TEL 0763-23-2050

FAX 0763-82-5101
